

まほろん



通信

まほろんで

ドキ土器体験!

◆特集◆

5分でわかる縄文時代の 三ツ星★☆☆料理

■シリーズまほろんのヒミツ5■

体験メニュー開発の舞台裏に迫る! 之巻

■コラム■

茨内古墳の銅釧について

■シリーズまほろん回顧録1■

まほろん「勾玉づくり」事始め

5分でわかる 縄文時代の三 ツ星★★★★料理

縄文人は、縄文土器で何を調理していたの？考古学と科学のコラボレートでわかる、縄文人のお食事事情。

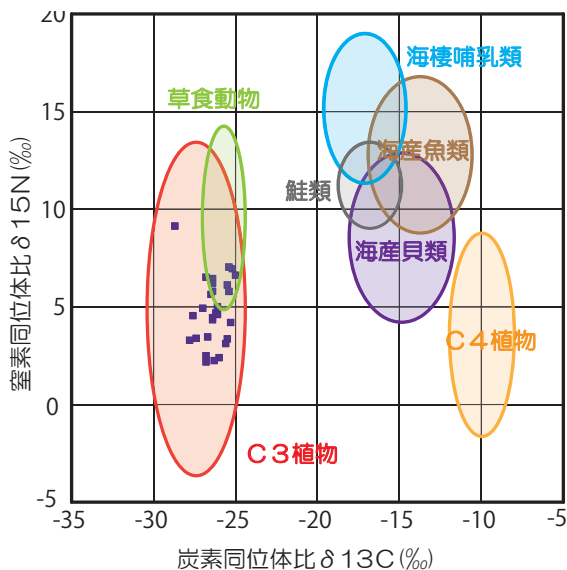
文：三浦 武司（専門学芸員）

コゲは、情報の宝もの

縄文土器は、お鍋として利用されていたんだよ。その証拠に、たまに土器にコゲがついていることがあるのさ。そのコゲをくわしく調べると、縄文土器を利用して、どのような食材を調理していたのか分かるような研究がすすんでるよ。下のグラフを見てみよう。



縄文土器の煮炊きのようす
(イメージ)



まほろんに保管されている縄文土器についているコゲ（グラフの中の■）は、C3植物の範囲に入っているよね。C3植物というのは、クリ、クルミやドングリなどの木の実、イモ類、豆類などだよ。

縄文土器についていたコゲから、これらの植物を多く煮込んでいたことがわかったんだ！

骨は語る？

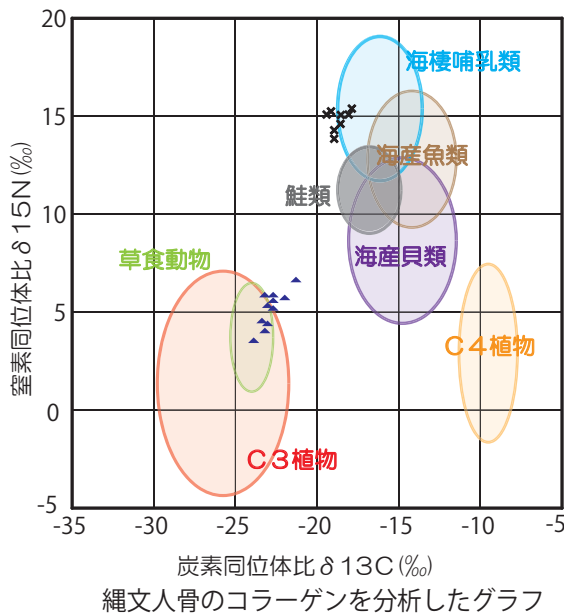
縄文人の骨を分析することで、当時の食べ物を明らかにする方法もあるよ。下のグラフがそれ！

まほろん収蔵の縄文土器のコゲを分析したグラフ

▲は、福島県新地町の三貫地貝塚の縄文人骨の分析結果。これを見ても・・・植物をたくさん食べていたことが分かるよね。海の近くに住んでいた福島県の縄文人は、海のモノよりも、植物をたくさん食べて、成長したみたい！

他の地方はどうか？✖は、北海道にある北小金貝塚の縄文人骨だよ。海棲哺乳類（クジラ、イルカ、アシカやオットセイなど）の範囲にあるよね。北海道の縄文人は、海のモノをいっぱい食べてたんだね。

縄文時代も、ご当地メニューなんてあったのかな？福島県の縄文人のまわりには、豊かな森が広がっていたことが考えられるね。



表紙の1枚

3月4日から開催中の企画展「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期の世界に迫るー」では、まほろんの特別展示室いっぱい、大小様々な縄文土器が並べられ、とても壮観です。企画展は、前期・後期にわけて、展示品の入れ替えを行い、4月5日（水）から後期展を開催中です。ゴールデンウィーク最終日の5月7日（日）まで。ぜひ、縄文中期の土器の世界を堪能してください。

まほろんのヒミツ5

体験メニュー開発の舞台裏に迫る！

之巻

まほろんの新しい体験メニューを開発する学芸員の苦労話を紹介！

文：笠井 崇吉（専門学芸員）

まほろんを訪れる楽しみの一つに、「火おこし体験」や「勾玉づくり」などの体験活動があります。これは、まほろんの役割の一つである文化財活用の一環として実施しているものです。様々な体験メニューを通してまほろんの收藏品や昔の技術への理解を深めてもらうよう意図しています。

まほろんでは、「常時体験メニュー」として、先述した「火おこし体験」と「勾玉づくり」を年間を通して行っています。また、この他に、一カ月単位で変わる「体験活動室メニュー」を準備して、リピーターの来館者にも対応しています。



体験メニュー企画会議の様子

この月替わりのメニューの開発と準備がなかなか曲者くせものです。

体験メニューの選定と開発は、体験チームの学芸員とアテンダントで構成された体験メニュー企画会議で行っています。基本的には、小学校中学年以上を対象とした難易度の高いメニュー、学齢前でも体験可能なメニューを組み合わせ、毎月2～3メニューをセットにして計画を立てます。多くのメニューは、過去に人気があったものから選びますが、新たな素材を使ってみたり、やり方を変えてみると、同じメニュー名でも以前とは内

容が変わっているものがあります。また、企画展やまほろんイベントに関連して新メニューの開発も行います。新メニュー開発に際しての留意点りゆういてんは、歴史・文化財の学習効果、原材料費に見合う体験料の設定、体験所要時間の試算などです。その検討に際しては、体験活動室のお客様と常に接しているアテンダントの意見が大変参考になります。右の写真は、縄文時代早期の押型文土器おしがたもんの施文原体せもんげんたいに着想を得て、平成28年度のイベント用に開発し、その後体験活動室メニューとなった「施文原体ペンダント」です。平成29年度は夏休み期間に実施しますので、ぜひチャレンジして作ってみてください。



施文原体ペンダント

銅釧どうしんなどの金属器は、当時、手に入れることが難しく、管内古墳群に眠る人々が、その地域でも特に有力者であったことが分かります。



銅釧の刻み目（上：復元品 下：実物）

銅釧どうしんとは、青銅（銅と錫の合金）でつくられた腕輪（ブレスレット）で、日本では、弥生時代からみられる装身具です。まほろんでは、実際の出土品と復元品を並べて展示しています。銅釧が腕輪として金属で作られる以前、イモガイなどの貝殻を輪切りにしたものが用いられました。銅釧に残る刻み目は、その名残です。

まほろんの常設展示室には、白河市の管内古墳群（古墳時代後期）から出土した馬具や鉄刀などの副葬品が展示されています。その中には、41号横穴墓から出土の銅釧どうしんも含まれます。

『**管内古墳の銅釧について**』
文：（公財）福島県文化振興財団
遺跡調査部 文化財副主査 和田 伸哉

まほろん 「勾玉づくり」 事始め

まほろんの「勾玉づくり」
誕生秘話！

文：吉田 功（学芸課主幹）

まほろんでは、平成13年7月の開館と同時に、いち早く、滑石かっせきを使っての「勾玉づくり体験」を始めました。まほろんの開館に向けて準備をしていた平成11年当時、今のような学習教材の「勾玉づくり」セットはなく、体験学習に「勾玉づくり」を取り入れるためには、材料となる石材探しが課題でした。

勾玉はその昔、ヒスイやメノウといった硬い石かたで作られていましたが、体験学習の素材としては、加工しやすい軟らかい石材やわが必要でした。そこで、昭和30・40年代に子供達こどもが舗装道路などに絵を描いて遊んだ、当時は「ろう石」と呼ばれていた軟らかい

石ならば、勾玉づくりの材料として、子供でも削れるだろうと考えました。「ろう石」は、鉄板加工などのマーキング材「石筆」せきひつとして生き残っていましたが、いずれも細身で、勾玉づくりには使えませんでした。

そんな時、石筆の材料となる滑石を、希望のサイズに加工してくれるところがあると聞き、早速取り寄せることにしました。その会社は、学校の先生方にはなじみの深い「羽衣



最初の「勾玉づくり」の石材（滑石）

衣

チョーク」を製造・販売していた「羽衣文具株式会社」（愛知県春日井市 平成27年に廃業）でした。その後、小学校の授業で「勾玉づくり」じっせんを実践する機会にも恵まれ、まほろん開館前のイベント（平成12年10月開催）では、オリジナルの「勾玉づくり」セットを作成し参加者にプレゼントしました。これがまほろんの「勾玉づくり」の始まりです。

様々な体験メニューが加わった今日でも、その人気は変わっていません。



イベントで「勾玉づくり」セットをプレゼント

まほろん掲示板

4/5 (水) 企画展「縄文土器の年代Ⅱ」
(後期展示) (~5/7)

4/23 (日) 文化財講演会 1
「縄文時代中期の世界について」



4/29 (土) 考古資料研修

5/4 (木) ~ 6 (土) GWまほろんまつり

5/13 (土) 文化財保護・活用基礎研修

5/20 (土) 第1回館長講演会

6/4 (日) 野外展示と植物の見学会

6/11 (日) 実技講座 家族で土器づくり

6/24 (土) 文化財講演会 2

6/24 (土) ふくしま復興展 1「編む・組む・削るー植物利用の技術史ー」(~8/27)

7/1 (土) 上映会・無形の文化財研修

★お気軽にお問い合わせください！

編集後記

まほろんでは、4月からフレッシュなメンバーも加わって、新年度がスタートしました。今年度も様々な企画展やイベント、また新たな体験メニューなどを準備しています。盛りだくさんの内容で、皆様のご来館をお待ちしております。

まほろん 通信 vol. 63

平成29年4月14日発行

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW及び夏休み期間中は開館します) / 国民の祝日の翌日 (土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始 (12月28日~1月4日))
入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



福島県文化財センター ● 白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

